コロナ封じ込めへ　ＰＣＲ検査の拡充を

日本共産党甲賀市議員団が市に緊急申入れ

国内で初のコロナ感染が発見されてから１年３カ月が経過するのに、一向に終息の目途が立ちません。それどころか感染力が強い変異株の流行や第四波ともいえる感染の増加傾向が懸念されています。日本共産党甲賀市議員団は３月１５日、新型コロナ感染拡大を抑止し封じ込めるためには、ＰＣＲ検査の抜本的な拡大が必要と市に緊急申入れを行いました。検査は国と県の責任が重大ですが、市民のいのちと健康を守るため市としても積極的な対策が必要、と４項目の申入れを行ったものです。

小西喜代次議員が代表質問

新年度予算案を中心に議論する３月定例議会は２月18日から３月26日まで開かれました。いま政治が最優先で取り組まなければならないのは、新型コロナ感染抑止対策です。甲賀市の新年度予算は「アフターコロナを見据えた」各種事業は計上されていますが、感染封じ込めのためのＰＣＲ検査の拡大は「県任せ」で市独自の検査費用は一円も計上されていません。日本共産党は、大規模・網羅的な検査、リスクが高い施設等での社会的検査、変異株検査などを市独自で取り組むよう、代表質問や一般質問、常任委員会でも積極的に発言しました。各会派を代表しての代表質問には、小西喜代次議員がたちました。山岡光広・岡田重美議員も積極的に発言しました。

代表質問に立つ小西議員

小西議員は、国政の焦点と市長の政治姿勢、生活保護申請と扶養照会、新型コロナ対策、特に公立甲賀病院でのクラスター対策、幼保小中再編計画、自治体のデジタル化、新年度予算の柱など、大きく７つのテーマで質問しました。

生活保護の扶養照会については、甲賀市では本人が拒めば行っていませんが、「扶養照会は義務ではない」とする国会答弁をふまえた対応を求めました。

コロナウイルスの感染拡大防止対策については、新型コロナの特徴は無症状の陽性者が感染を拡大することにあり、陽性者を早期に発見・保護することが重要であること。そのためには、県任せにせず、市が独自に感染リスクの高い施設での頻回・定期的なＰＣＲ検査の実施が大事であることを強調して、その実現を迫りました。

また、２回のクラスターが発生した公立甲賀病院は甲賀市長が病院管理者であることから、クラスター発生からの教訓から何をいかすか、全職員・患者さんへの頻回・定期的なＰＣＲ検査を病院に指示すること、病院の医療体制の確保のために、医療圏域をあげての取り組みを提案しました。

幼・保小中学校再編計画では、周辺地域の過疎化、少子化対策、地域の活性化に逆行する、地域の学校再編検討協議会の結果の尊重と存続を決めた地域への対応を求めました。

行政のデジタル化推進では、根本的問題点と障害時の対応等を指摘しました。

新型コロナ感染抑止対策

◆地域経済好循環創出事業「地域経済応援クーポン券配布」

１世帯５枚(2,500 円)+世帯構成員１人あたり５枚(2,500 円)のクーポン券を配布。市内店舗での買物等の代金1,000 円毎に１枚(500 円)利用することができます。クーポン券の利用開始は、９月１日から。

◆新型コロナウイルス感染症予防資材購入…232 万８千円

◆移動販売モデル事業…300 万円。買い物に行くことが困難な人のための買い物支援。市内小売業者２社と契約を結び、市内８０カ所で移動販売を実施。

◆国民健康保険傷病手当金・見舞金…188 万円。

◆放課後児童クラブ環境整備支援補助…1680 万円。

◆ホストタウン感染対策(PCR 検査と感染予防対策用品購入)…200 万円。

庁舎での「赤旗」配達・集金問題　日本共産党県委員会と議員団 抗議・撤回求め市に申入れ

甲賀市長が理由も示さず甲賀市役所内での「しんぶん赤旗」の配達・集金活動を禁ずる対応をしたことに、日本共産党滋賀県委員会と湖南地区委員会の責任者と甲賀市議員団が２月４日、連名で抗議と撤回を求める申し入れを行いました。この問題は、日本共産党と「赤旗」に対する攻撃であり、断固許すことができません。

日本共産党
甲賀市議員団ニュース
2021年 4月 11日　第352号

山岡 光広
甲南町森尻 16
TEL 86-2985
Fax 86-0415

小西喜代次
信楽町勅旨 456
TEL 83-0765
Fax 83-0765

岡田 重美
土山町南土山甲 78-15
TEL 66-0696
Fax 66-0696

甲賀市議団のホームページ http://city-koka.jcp-web.net/